

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第42回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第42回：2013年8月29日 13：30～17：30
2. 場所 原安進 第3,4会議室
3. 出席者  
(出席委員) 高田主査、小倉副主査、村田幹事、岩谷委員、大塚委員、岡野委員、  
桐本委員、青井(黒岩委員代理)、小谷委員、小森委員、西村(久持委員代理)、  
田口(廣川委員代理)、濱口委員、山中委員 (14名)  
(常時参加者) 佐竹 (1名)

(敬称略)

4. 配布資料  
P4SC-42-1 第41回レベル1PRA分科会議事録(案)  
P4SC-42-2 人事について  
P4SC-42-3 標準委員会等のコメント対応  
P4SC-42-4 実施基準改定案  
P4SC-42-5 実施基準改定案(見え消し付き)  
P4SC-42-6 標準委員会書面投票結果  
P4SC-42-7 レベル1PRA分科会 委員リスト

5. 議事内容

冒頭、出席者が定足数以上であることの確認があった。

また、これまで分科会においては正式資料のほかに参考資料が配布されていたが、学会事務局からの通達により、今後の分科会において議事次第に記載された資料については、公開資料の扱いとなること、さらに、常時参加者においても委員と同じ並びの席につくことになった旨の説明があった。

(1) 前回議事録の確認

資料P4SC-42-1を用いて、前回議事録を確認した。特にコメントはなかった。

(2) 人事について

資料P4SC-42-2を用いて、菅原委員候補の委員選任、及び柏木常時参加者候補の常時参加者選任について審議され、全員一致で承認された。また、幹事より委員退任の報告があった。

### (3) 実施基準改定案修正案について

資料 P4SC-42-3～P4SC-42-5 を用いて、標準委員会委員からのコメントへの対応案について議論した。主な議論は以下のとおり。

#### a. コメント No. 168

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。起因事象を数値で除外する場合に考慮すべき事項として、炉心損傷頻度への影響が十分に小さいこととする。ただし、インターフェイスシステム LOCA 及び格納容器バイパスは炉心損傷頻度としては小さくても環境への影響が大きいことから、除外できないという主旨で本文を修正する。また、他にも環境への影響が大きい起因事象があれば除外すべきではなく、その旨を解説に記載することとなった。

#### b. コメント No. 170 及び No. 172

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。PRA の実施においては、評価の目的に応じて起因事象のグループ化を行う場合と行わない場合があるが、この実施基準では起因事象のグループ化を行う方針となっているのではないかとの意見があった。附属書 I (参考) ではこれまで実施された評価の例を記載したものであり、現状の記載で特に修正は不要であることを確認した。

#### c. コメント No. 173

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。「極度の LOCA」は英語の Excessive LOCA に相当する用語であり、PRA の分野では一般的に用いられていることから、このままとする。ただし、コメントを踏まえ、「極度の LOCA」の説明書きを、「工学的安全施設のいかなる組合せでも緩和できない極めて大規模な LOCA」とすることとなった。

#### d. コメント No. 174

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。この結果、コメント対応方針を確認した。

#### e. コメント No. 175

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。附属書 F の表 F.3 及び F.4 で、過渡事象の例について英語から日本語に訳していたが、英語と日本語を併記することとなった。

#### f. コメント No. 176

西村委員代理よりコメント反映内容について説明があり、それぞれの反映内容について審議した。この結果、コメント対応方針を確認した。

#### g. コメント No. 177

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。コメント対応としては、文献が追加されていることを確認した。

h. コメント No. 178

大塚委員よりコメント反映内容について説明があった。解説 1 にある「軽水炉」は、「軽水型原子力発電所」とすることとなった。

i. コメント No. 179

岩谷委員よりコメント反映内容について説明があった。専門家判断の活用に関して、PRA 品質確保実施基準（案）の最新版の記載を確認して修文することとなった。また、ピアレビューの実施に関しても、記載を見直すこととなった。

j. コメント No. 180

小谷委員よりコメント反映内容について説明があった。この結果、コメント対応方針を確認した。

k. コメント No. 181

青井委員代理よりコメント反映内容について説明があり、それぞれの反映内容について審議した。この結果、コメント対応方針を確認した。

l. コメント No. 182

ページ番号の修正である旨の説明があった。特に議論はなかった。

m. コメント No. 183

コメントの内容および対応方針について確認した。特に議論はなかった。

n. コメント No. 184

小谷委員よりコメント内容について説明があり、その対応方針について確認した。特に議論はなかった。

o. コメント No. 185

小谷委員よりコメントの内容とその対応方針について説明があり、それぞれの反映内容について審議した。この結果、コメント対応方針を確認した。

p. コメント No. 186～No. 188

誤記の修正である旨の説明があった。特に議論はなかった。

q. コメント No. 189

村田幹事よりコメント内容について説明があり、それに対する反映内容について審議した。この結果、コメント対応表の記載について、現時点においてもデータは整備されているということと、標準の使われ方についての記載を追加することとなった。

(4) 標準委員会 最終報告（案）について

資料 P4SC-42-6 を用いて、標準委員会での決議投票の結果について説明があった。ここでのコメントについては資料 P4SC-42-3 で整理されている。本分科会での議論をふまえ、資料 P4SC-42-3～P4SC-42-5 を修正したものを次回のリスク専門部会／標準委員会で説明する旨の説明があった。

(5) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールを確認した。また、次回分科会は、12/2 PM となった。

以上